

令和 6 年度（令和 5 年度分）

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和 6 年 9 月

山鹿市教育委員会

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1～2
	(1) 点検及び評価の趣旨	
	(2) 点検及び評価の対象	
	(3) 点検及び評価の方法	
	(4) 総合評価の方法	
	(5) 山鹿市教育委員会名簿	
2	施策の体系（第4次山鹿市教育振興基本計画体系図）・・・・・・・・	3
3	施策評価調書	
	【基本方針Ⅰ】「ひと輝く」・・・・・・・・・・・・・・・・	4～11
	【基本施策Ⅱ】「きずな結ぶ」・・・・・・・・・・・・・・・・	12～18
	【基本施策Ⅲ】「みらい彩る」・・・・・・・・・・・・・・・・	19～20
4	教育委員会の主な活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・	21～22
5	教育委員会事務局の組織及び事務分掌・・・・・・・・	23～25

1 はじめに

(1) 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)の一部が改正され、教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

この報告書は、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、本市教育委員会が行った主な施策・事業の実績について点検・評価としてまとめたものです。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検及び評価の対象

令和6年度に点検及び評価を行う事業は、第4次山鹿市教育振興基本計画の基本方針に基づき山鹿市教育委員会が実施した主な取組施策16事業としました。

(3) 点検及び評価の方法

ア 教育委員会が取組む施策の体系ごとに、各事務事業担当課が「施策評価調書」を作成し、具体的な事業指標を用いながら、客観的な視点から評価及び課題の分析を行い、今後の事業に活かすものとします。

イ 各事務事業担当課が作成した「施策評価調書」について、学識経験等を有するもので構成する山鹿市教育基本計画推進委員の意見を聴取したうえで、教育委員会において点検及び評価を行います。

ウ 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を山鹿市議会へ提出します。また、報告書は市ホームページで公表するものとします。

(4) 総合評価の方法

以下の評価基準に基づいて評価しました。(主な施策取組み内容及び成果ならびに成果指標達成率を総合的に判断し、下記の評価区分により評価を行う。)

評価区分	評価基準	評価結果に基づく改善等の考え方
A	目標を達成できた。 または十分な成果を得ている。	・現状どおり事業継続(拡充を含む。)していく。 ・当初の目的を達成し、事業が完了した。
B	概ね満足な成果を得ている。または目標達成に向けて進んでいる。	・概ね目標は達成できているが、必要に応じて事業内容等の見直しを検討する。
C	ある程度の成果を得ている。または目標達成に向けて多少の成果を上げている。	・目標達成に向けて、事業規模・内容等の改善検討が必要。
D	満足のいく成果は得られなかった。または目標の達成は困難である。	・事業実施の効果が薄い。 ・実施方法等の抜本的な見直しが求められる。

(5) 山鹿市教育委員会名簿(令和6年4月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教育長	堀田 浩一郎	R 5. 4. 1 ~ R 8. 3.31
委員(教育長職務代理者)	野中 米里	R 5. 4. 1 ~ R 9. 3.31
委員	野口 法子	R 4. 4. 1 ~ R 8. 3.31
委員	立山 和宏	R 3. 4. 1 ~ R 7. 3.31
委員	芹川 博己	R 6. 4. 1 ~ R10. 3.31

2 施策の体系(第4次山鹿市教育振興基本計画体系図)

教育大綱で示す3つの基本方針について、基本目標を定め、目標ごとに取り組むべき主な16の施策を掲げています。なお、目標に対して施策が重複する場合は、再掲と表示しています。

基本方針	基本目標	主な取組施策	
基本方針Ⅰ 「ひと輝く」 受け継がれてきた、かけがえのない「命」を輝かせる教育を目指します。	自他の命を大切にする教育の推進	Ⅰ－１	子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実
	確かな学力と健やかな体の育成	Ⅰ－２	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進
		Ⅰ－３	情報教育の推進
		Ⅰ－４	生涯スポーツの振興
		Ⅰ－５	「ハンドボールの街やまが」の推進
		Ⅰ－６	学校施設の整備・充実
	多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成	Ⅰ－７	社会体育施設環境の充実
		(再掲) Ⅰ－１	子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実
基本方針Ⅱ 「きずな結ぶ」 学びを支え、学びを軸につながりを広げる生涯学習の向上を目指します。	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進	Ⅱ－１	子どもたちの郷土愛と誇りを育む
		Ⅱ－２	文化財の保存と活用
		Ⅱ－３	博物館展示等の充実
	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実	Ⅱ－４	生涯学習の推進
		Ⅱ－５	文化団体の育成支援
		Ⅱ－６	読書活動の推進
		Ⅱ－７	公民館活動の推進
基本方針Ⅲ 「みらい彩る」 広い視野を持って、主体的に行動する人材の育成を目指します。	社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成	Ⅲ－１	山鹿創生塾
		(再掲) Ⅰ－２	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進
		(再掲) Ⅰ－３	情報教育の推進
	SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた行動を起こす力の育成	(再掲) Ⅰ－２	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進
		(再掲) Ⅲ－１	山鹿創生塾
	豊かなコミュニケーション能力の育成	Ⅲ－２	国際理解教育の充実
		(再掲) Ⅱ－６	読書活動の推進

3 施策評価調査

施策評価調査

施策評価調査			担当 部課	教育部	学校教育課
基本方針	ひと輝く	基本目標	自他の命を大切にする教育の推進		
			多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成		
施 策 名	I－1 子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実				
施策の目的	子どもの居場所を確保するとともに、様々な課題を抱える子どもたち一人一人の教育的ニーズに対して、適切な支援を丁寧かつ継続的に行うことで、不登校やいじめがゼロに近づき、障がいの有無に左右されず全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備する。				

1 事業の取組状況

【事業名】不登校対策事業

取組内容	成果
①不登校の児童生徒や登校渋りがある児童生徒に対して、市教育支援センター（山鹿教室・鹿北教室・鹿本教室）を設置し、児童生徒一人一人の状況に応じた適切な指導や学習支援を行った。また、学校、関係機関との連携を図るとともに、家庭訪問を実施した。 ②中学校全校にサポートティーチャーを配置し、授業や学校生活において個別支援を行い、不登校の未然防止を図った。	①②本事業は、「誰一人取り残さない取組」である。①では、個に応じた丁寧な支援や市教育支援センターと学校との連携により、学校には足が向かない児童生徒が、市教育支援センターでは過ごすことができるようになってきている。さらに、菊池少年自然の家での自然体験を通して、元気をとりもどし、学習や学校復帰への意欲を高めている。②では、学校における気になる児童生徒に学習や悩みの相談等様々な関わりを通して、自己有用感を高めている。
課題及び今後の展開	市教育支援センターが多くの子どもたちの居場所づくりとなっているが、利用する児童生徒が年々増えており、教室環境の整備や学校復帰に向けた取組の工夫が必要である。 学校との連携を図るうえで、学校や家庭への送迎が増え、アウトリーチ支援の方法を工夫する必要がある。さらに、学校での居場所づくりのための校内教育支援センターの設置も検討する必要がある。

【事業名】特別支援教育充実事業

取組内容	成果
①合理的配慮協力員（会計年度任用職員）を3名配置し、県の巡回相談事業と併せて、巡回相談を実施した。山鹿市内の幼稚園、保育園、小中学校を訪問し、状況に応じた支援・指導を行った。 ②通常学級に在籍する障がいのある児童生徒や、特別支援学級に在籍する児童生徒に対してサポートティーチャーを配置し、担当教諭と協議しながら個々の状況に応じた支援を行った。	①②本事業により、支援が必要な児童生徒について、学校全体で共通理解を図り、全職員で一人一人の子どもを支援する体制整備が進んだ。また、誰にとってもわかりやすく、ともに学ぶことができる授業づくりにおいて工夫改善がなされた。さらに、ケース会議や不登校対策委員会においても助言を行うことで、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう支援した。
課題及び今後の展開	校種間の引継ぎ、情報交換を実施し確実に移行支援を行っていくことが大きな課題である。本年度改訂した移行支援シートの効果的な活用を進めながら移行支援の充実を図っていく必要がある。さらに、子ども課やスクールソーシャルワーカーとの連携を進めていくことで、それぞれの役割を生かしながら、児童生徒を支援する必要がある。

【事業名】スクールソーシャルワーカー配置事業

取組内容	成果
精神保健福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめや不登校といった問題を抱える児童生徒に対する心のケアのみならず、学校、家庭、関係機関との連携を密にし児童生徒を取り巻く環境の改善に総合的に取り組んだ。また、ケース会議への参加や校内研修等で教職員の支援を行った。	児童生徒を取り巻く環境や必要な手立てを整理し、家庭と学校や関係専門機関をつなぐことで、情報整理や情報共有ができ、児童生徒の正しい理解や抱えている問題の早期解決につながった。さらに、定期的にスクールカウンセラー、教育支援センター、子ども課、担当職員が連携会議を開くことにより、情報共有と対策を検討し、対応することができた。
課題及び今後の展開	心のケアを必要とする児童生徒や家庭支援の必要がある件数が増えているため、スクールソーシャルワーカーの支援時間数が不足してきているので、業務の効率化等に取り組んでいく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	不登校児童生徒数（100日以上欠席） ※病気、経済的理由を除く	人	25	24.0% (①/②)	41	14.6% (①/②)			6
2	学校は楽しいと感じる児童生徒の割合 ※熊本県公立学校「心のアンケート」調査結果	%	小93.5% 中89.6%	93.4%	小94.3% 中86.2%	92.1%			98.0

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	子ども一人一人に応じたきめ細やかな支援が各学校で展開されており、外部機関との連携もできている。しかし、不登校の児童生徒数が年々増えていることから、各学校も苦慮している。今後も不登校の要因は様々であるが、様々な外部機関と連携しながら、家庭訪問等で人とのつながりが切れないよう取り組む必要がある。さらに、児童・生徒の状況に対応できる様々な居場所づくりを学校内外に整備していく必要がある。
------	----------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	学校教育課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
	みらい彩る		社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
			SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成
施策名	I－2　生きる力を育む質の高い授業づくりの推進		
施策の目的	次世代を担う子どもたちが、予測困難な社会の中でも夢や学ぶ意欲をもち、課題に対して主体的に考え、他者と協働しながら粘り強く解決に向かっていく力を育成する。		

1 事業の取組状況

【事業名】学校教育推進事業

取組 内容	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「学び合い」と「まとめ」を大切にした授業の充実を掲げ、授業づくりについて学校教育指導室全体で方向性を揃えて指導や助言を行った。 ②校務改革、授業改革の推進を図るために、教職員を対象に役職・経験年数・教科ごとの研修、幼保小中が連携した研修を実施した。また、学校の課題を全職員で共有し、同じ方向性で取り組むように指導、助言を行った。 ③学校や教職員の実態に応じ、タブレット端末が授業の中で「効果的に使われているか」を再度検討し、学校訪問や研修で助言を行った。	成 果	①すべての学校において、「主体的・対話的で深い学び」を追究した授業研究が行われ、児童生徒の主体的な学びについて議論が進んだ。 ②研修の内容に、教職員がお互いの教育実践を共有する時間や課題について意見交換する場を多く設け、教職員自身の主体性を促すことができた。 ③計画的、効果的にICTを活用している教職員が増加し、ICTの効果的な活用による深い学びを実感している児童生徒も増えた。
課題及び今後の展開		ICTの活用によって、主体的・対話的でより深い学びにつながる授業づくりが必要である。家庭学習や授業も、児童生徒の主体性に課題があり、重点的な指導が必要である。タブレットの家庭への持ち帰りを促進し、個に応じた家庭学習課題の与え方について研究していく。	

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果 指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	熊本県学力学習状況調査平均正解率を上回る学校の割合(小学校：国語・算数、中学校：国語・数学・英語)	%	83.0	90.2%	81	88.0%			92.0
2	「主体的・対話的で深い学び」の中で自ら課題を解決できている児童生徒の割合	%	92.3	102.6%	98.1	109.0%			90.0
3	ICTの効果的な活用により深い学びを実現していると答えた児童生徒の割合	%	92.2	102.4%	90	100.0%			90.0

3 総合評価と評価の理由

総合 評価	A	各学校が「誰一人取り残さない教育」を目指し、学力調査結果の分析に基づいた個に応じた指導と主体的・対話的で深い学びの追究に努めた結果、学力の向上につながった。
----------	---	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	学校教育課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
	みらい彩る		社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
施 策 名	I－3 情報教育の推進		
施策の目的	新学習指導要領の着実な実施に加え、ICT機器の活用による教育の情報化を通して、児童生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら主体的に学ぶ姿勢を育成する。		

1 事業の内容と成果等

【事業名】教育情報化推進事業

取組内容	①学校の課題解決を図るため、学校教育指導室及びICT支援員による支援訪問を積極的に行い、教師の指導力向上に向けた指導助言を行った。 ②山鹿市全体で授業の質の向上に努めるため、校長会議を中心に、山鹿の教育課題を明確にし共通実践を図った。 ③児童生徒1人1台のタブレットを有効活用するために、教職員のニーズに合った研修を行った。 ④山鹿市の全ての学校で、学校情報化認定優良校を目指して取り組んだ。	成 果	①教職員のニーズに合わせて授業力向上につながるアドバイスをを行うことにより、教職員の授業改善への意欲が高まった。 ②校長会議等で、ICT活用の実態も含めた授業の質の向上について共通理解を図り、市内小中学校全体での共通実践につなげた。 ③タブレットの活用については、教科の授業だけでなく、特別活動や委員会活動等でも利用が進んだ。 ④市内にある全ての小中学校が学校情報化認定優良校となった。
	課題及び今後の展開		タブレットの破損が増えているため、タブレットの取扱い方法について、再度共通理解を図っていく。 情報リーダー研修の中に、技能面だけでなく情報モラルに関する研修を取り入れていくとともに、複数の教職員が参加できるICT利活用研修を開催していく。 児童・生徒に大きく影響する可能性がある視力低下（目への配慮）について、学校と連携し、保健だより等において注意喚起を行っていく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
									目標値①
1	学校情報化認定優良校の小・中学校数 ※日本教育工学協会(JAET)	校	10	91.0%	13	118.2%			11
2	児童生徒一人当たりの月平均タブレット通信量	GB	2.14	71.3%	1.75	58.3%			3.00

3 総合評価と評価の理由

総合評価	A	タブレットの効果的な活用や授業改善も進んでおり、教職員の自主的な研修も活発に行われた。市内にある全ての小中学校が学校情報化認定の優良校となった。今後も、より効率的な活用が図られるよう研修等を計画していく。
------	---	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	I-4 生涯スポーツの振興		
施策の目的	市民のニーズが多様化する中、それぞれのライフスタイルに応じたスポーツに親しむことができる環境づくりが求められている。また、スポーツ推進委員による地域スポーツの活動推進とスポーツ協会、やまが総合型スポーツクラブなどの関係団体の組織力強化と競技力向上のための支援を行い、市民の健康増進と生涯スポーツの普及を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】生涯スポーツ推進事業

取組内容	①ニュースポーツの「モルック」はフィンランドの伝統的な遊びを元に考えられたアウトドアスポーツで、子どもからシニア、足腰の不自由な方までみんなで楽しめるユニバーサルスポーツとして、スポーツ推進委員が連携して、各地域への普及活動を行った。 令和5年度は、熊本県スポーツ推進委員研修会・山鹿大会において、ダンボールで制作された「モルック」競技を行った。 ②小学校運動部活動の社会体育移行に伴うアクティブチャイルドプログラム（ACP）活動を希望のあった小学校において、指導員を派遣して実施した。 ③スポーツ協会が主催する「山鹿市駅伝大会」や市民の親睦を目的として「フレンドリーゴルフ大会」などを実施した。	成果	①山鹿さくら湯を中心として開催された第9回「街道浪漫」や各地域のスポーツ行事においてスポーツ推進委員が「モルック体験教室」を開催するなど普及に努めた結果、ニュースポーツ「モルック」の認知が広がり、地域や学校レクレーションで実施したいとの反響を得ることができた。 ②アクティブチャイルドプログラムについては、希望のあった鹿北小学校に7回、社会体育指導員を派遣した。低学年対象であったが、初回に比べ最終回における子どもたちの動きは、活発になっており、身体機能の強化と体力向上の成果があった。 ③スポーツ協会が主催した山鹿市駅伝大会に21チーム、フレンドリーゴルフ大会に17組63人が参加した。両大会ともスポーツを通じて市民の健康増進と親睦に寄与するとともに、運営に関わる協会内部の組織力強化にも貢献した。
	課題及び今後の展開		幅の広い生涯スポーツ推進事業の中で、現在実施しているニュースポーツの普及、アクティブチャイルドプログラムの実施及びスポーツ組織・団体の支援について継続していく必要がある。特に、アクティブチャイルドプログラムは、児童の健やかな体を育むために重点的に取り組む必要がある。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
									目標値①
1	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	-	-	-	-			65.0
2	スポーツ協会会員数	人	3,641	93.4%	3,642	93.4%			3,900

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 計画していた活動は予定どおり実施することができたが、アクティブチャイルドプログラムにおいては、授業カリキュラムや実施方法について受託先との調整がつかず、鹿北小学校1校に留まってしまった。小学生の体力低下が懸念しており、オムロンハンドボール部との連携を図りながら、体力向上に向けた取り組みを市内の小学校で広く実施していく必要がある。 また、スポーツ協会が主催する市民を対象とした事業についても、事業内容の充実を図りながら継続して取り組んでいく。
------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	I－5 「ハンドボールの街やまが」の推進		
施策の目的	オムロンハンドボール部が本市に拠点を置き、オリンピックにも選手を輩出していることから、オムロンハンドボール部と連携した教室や大会を継続して開催し、競技力の向上やスポーツの推進を図り、他の競技にも波及する取組を展開していく。		

1 事業の取組状況

【事業名】スポーツ推進事業

取組内容	山鹿市で開催される日本ハンドボールリーグホームゲームを市民に周知し、試合観戦者数を多く集客することで、オムロンハンドボール部及びハンドボールのファンの増加に努めた。	成 果	山鹿市総合体育館で行われる日本リーグホームゲームの開催にあたり、やまがメイト等を活用して市民への周知を行うことができた。 また、オムロンハンドボール部と連携し、選手たちが直接市役所等においてチラシ配布や大会の告知を行うことで、多くの集客につながった。 R4シーズン（観客総数3,627人、平均観客数518人） R5シーズン（観客総数4,293人、平均観客数716人）
課題及び今後の展開	日本ハンドボールリーグホームゲームの周知に関しては、引き続き継続して取り組んでいくが、既存の周知方法ばかりでなく、市民を広く取り込む告知方法を検討していく。		

【アスリート育成事業】

取組内容	オムロンハンドボール部と連携し、市内小学6年生を対象としたハンドボール教室を展開しながら、ハンドボールへの興味や関心を引き出す環境をつくり、競技人口の増加と競技力向上を図る。	成 果	継続して実施しているハンドボール教室をオムロンハンドボール部に委託し、市内全ての小学校を対象に延べ43回の指導を行った。なお、小学6年生を対象に行ったハンドボール大会は、全小学校432人の参加があり、競技としてハンドボールを始めききっかけとなった。
課題及び今後の展開	小学生を対象にハンドボールの指導や大会を行うことで、ハンドボール競技への魅力を伝え、ハンドボール競技人口の増加を目指していく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	ハンドボール競技人口	人	340	75.6%	340	75.6%			450

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	小学生を対象としたハンドボールの指導及び市内小学生ハンドボール大会は、オムロンハンドボール部の協力で予定どおり開催することができ、小学生の体力向上やハンドボール競技者の維持に繋げることができた。
------	----------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	教育総務課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	I－6 学校施設の整備・充実		
施策の目的	学校施設の老朽化対策は、令和2年度に策定した「山鹿市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・建替えを行いながら、安全安心で、かつ、質の高い教育環境の整備を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】安全・安心な学校づくり事業

取組内容	八幡小学校屋内運動場建設外工事 整備期間は校舎外壁工事を含め、令和4年度から令和6年度までの3年間である。令和4年度は、屋内運動場建設予定地の湧水排水工事や防球ネット設置工事を行うとともに、老朽化により劣化した校舎棟の外壁改修工事も併せて行った。 令和5年度は、屋内運動場の建設を行い、令和6年2月末に完成した。 令和6年度は、外構工事（渡り廊下・舗装・遊具設置）を予定している。	成 果	学校施設は、児童生徒・教職員等が一日の大半を過ごす活動の場であり、教育環境設備の向上・維持は重要である。 老朽化した校舎棟の外壁改修及び屋内運動場の建て替えを行うことにより、児童生徒に学びやすい教育環境を提供することができる。
課題及び今後の展開	近年の物価高による資材高騰の中、老朽化が進む学校施設について、長寿命化計画に基づく優先順位を考慮しながら、計画的な施設整備を図る必要がある。		

【事業名】学校施設長寿命化事業

取組内容	①大道小学校校舎屋根改修工事 ②山鹿中学校教室棟屋上防水改修工事 ③鹿本中学校特別教室棟屋上防水改修工事 令和4年度に全ての中学校を対象として、建物の老朽化、劣化度を調査する健全度調査を実施した。調査の結果、建て替えは未だ時期尚早であることが判明したが、このまま何らの改修を行わなければ建物の劣化は進行するため、当面は各学校の屋根や外壁の改修を行いながら建物の劣化を抑える必要があるとの判断に至り、屋上防水工事、外壁塗装工事を行い、建物の安全性確保を図った。	成 果	①②③コンクリート造りの建物は、ひび割れが増大するとその部分から空気・水分が侵入し中性化や鉄筋の錆の原因となり、劣化を進行させる大きな要因となることから、屋上防水、外壁塗装を行うことで、空気・水分の侵入を防ぎ、劣化を抑えることができた。 施設の更新、改修を行うことにより、児童生徒に安全・安心な教育環境を提供することができた。
課題及び今後の展開	特に中学校の施設については、老朽化が進んでいるため、計画的な改修が必要である。今後は、年次計画により、各学校の防水工事、外壁塗装工事を行っていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率①/②	実績値②	達成率①/②	
1	防犯カメラ設置校数 ※()は累計数	校	0(3)	23.1%	3(6)	46.2%			13 (3校は設置済)
2	校舎LED照明整備校数 ※()は累計数	校	2(5)	38.5%	3(8)	61.5%			13 (3校は設置済)

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	八幡小学校屋内運動場建設外工事については、令和4年度に着手し、令和5年度で予定していた屋内運動場建設を完了することができた。 防犯カメラ設置及び校舎のLED照明整備については、資材不足の影響もなく、年度計画に基づき工事を完了することができた。
------	---	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	I－7 社会体育施設環境の充実		
施策の目的	本市の社会体育施設は、建築後耐用年数を経過した施設が多く、本体の老朽化や設備の経年劣化による維持管理費の増大が懸念されている。そのため、本市の個別施設計画に基づき、費用対効果や地域における施設配置の状況を検証しながら、カルチャースポーツセンターを核とした第3次社会資本整備計画を推進し、社会体育施設環境の充実を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】カルチャースポーツセンター長寿命化事業

取組内容	カルチャースポーツセンターの第1次整備計画から25年以上経ち、躯体及び設備等の集中的な改修工事を目的とした長寿命化事業は、令和4年度に総合体育館及び野球場の主要部分の改修工事は終了したが、令和5年度には、映像・音響設備等更新工事などを行った。 また、市弓道場が建築後38年経過し、経年劣化が著しいので、利用者の利便性向上を図るため、大規模改修工事を実施した。	成果	カルチャースポーツセンターの長寿命化事業に伴う設備改修工事や市弓道場の大規模改修工事などを行ったことから、多くの競技において、各種大会及び合宿等の誘致が可能となった。
課題及び今後の展開	市民や利用者のニーズ、大会等の誘致に対応していくため、社会体育資本整備計画に基づき継続して既存施設の改修・整備を進めていくが、緊急に対応が必要な場合は、利用者が安全に利用できることを優先して工事を実施していく。 また、老朽化の著しい社会体育施設については、解体を視野に入れながら地元の意見を踏まえ、今後の取り扱いについて検討を進めていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	社会体育施設利用者	人	281,514	64.0%	356,829	81.1%			440,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	新型コロナウイルス感染症の位置付けが「5類感染症」となったことから、年間延べ利用者数は増加傾向であり、カルチャースポーツセンターの長寿命化工事や既存の社会体育施設の改修を進めたことにより、利用者の安全かつ快適な施設利用につなげることができた。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	教育総務課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成
施 策 名	I－8 学校規模の適正化		
施策の目的	少子化が進む中で、児童生徒にとって望ましい教育環境の整備・充実を図るため、「山鹿市立小・中学校規模適正化基本計画第2次計画」に基づき、再編計画の最後となる山鹿小学校・平小城小学校・三岳小学校の統合について令和5年4月を目標に、統合準備委員会等を通じて円滑に進むよう取り組む。		

1 事業の内容と成果等

【小・中学校規模適正化事業】

取組内容	成果
課題及び今後の展開	

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率①/②	実績値②	達成率①/②	
	小学校数	校	8	100.0%					8

3 総合評価と評価の理由

総合評価	令和4年度をもって、すべての事業が完了。
------	----------------------

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課 文化課
----------	-----	-------------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施 策 名	Ⅱ－１ 子どもたちの郷土愛と誇りを育む		
施策の目的	ふるさと山鹿を愛し誇りに思う、将来の山鹿を担う人材を育成することを目的とする。		

1 事業の取組状況

【事業名】子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業

取組 内容	①立志の道事業 山鹿市が生んだ熊本県初の内閣総理大臣「清浦奎吾」が少年時代に通った大分県の私塾「咸宜園」までの道程を実際に辿る経験を通して山鹿市教育大綱に掲げる「生きる力」「耐える力」の養成を図った。 ②山鹿・郷土かるた かるたを使って、楽しく遊びながら山鹿市の歴史や人物、豊かな自然や産物を知ってもらおうよう、市内の小中学生が絵札と読み札を作成した「郷土かるた」を小学１年生に配布を行った。 ③「ふるさと山鹿の歴史探検バス（以下、歴史探検バス）」と銘打って、市内の小学６年生と中学２年生が各地の文化財や資料館をバスで巡った。見学場所、実施日、行程については学校側と調整のうえ決定し、希望見学場所の施設職員やガイド団体等に説明を依頼した。 令和３年度作成の「山鹿の歴史たんけん」リーフレットの配布や「ふるさと山鹿の歴史」学習コンテンツの紹介を行い、山鹿の歴史に関する学習への活用を促した。 事業実施の概要については、山鹿市のホームページで紹介した。	成 果	①立志の道事業 山鹿市内の小学６年生及び引率者含め１０１名が参加（うち児童８０名）。参加した児童は、「咸宜園」や「清浦伯」等を学ぶことで、「清浦伯」を地元の偉人としてより身近に感じることができ、志を立てることの意義を感じることができた。 ②山鹿・郷土かるた １月２０日に山鹿市文化協会主催の小学２年生を対象とした「やまが郷土かるた」大会を開催し、協会員１０名、児童３８名の参加があり、協会員と小中学生が交流し有意義な大会となった。 ③本市の小・中学生が、市内各所に残る豊富な歴史文化遺産の見学を通じて、ふるさと山鹿の文化・文化財や先人の業績について知り、その価値に気づくことができた。 歴史探検バスは、市内の全ての小学６年生４１２名と中学２年生３５４名の合計７６６名が参加した。 生徒のアンケートには「地域の伝統を守る活動に参加したい、山鹿のことをもっと知りたいと思える良い機会になった。」（米野岳中学生２年生）、「山鹿に住んでいるのに知らないことばかりだった。山鹿の歴史や支えてきた人たちについて話を聴くことができ、とても勉強になった。」（山鹿中学生２年生）、「遺跡を見て、昔の人々の知恵や努力を感じることができた。」（三玉小学生６年生）という感想があった。
	課題及び今後の展開		①「立志の道事業」は、「清浦伯」の認知度向上のための取り組みと実施時期の検討が必要である。 ②「山鹿・郷土かるた」は、小中学校での社会教育事業、文化協会や公民館での色々な交流に活用できることを推進していく。令和６年度は、「地域振興公社」と「こもれび図書館」合同の大会を計画している。 ③中学校の意見として、学校側が参加する学年を決める形が望ましいとあった。その際は、本事業に中学生の時に参加しない生徒がいないように配慮していく必要がある。また、１校だけ午後の授業を利用したが、２時間しかなく、巡れる文化財等が少なくなったので、今後は午前中の利用としたい。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果 指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	目標値①
1	立志の道の参加者数	人	-	-	80	160.0%			50
2	歴史探検バス参加者の満足度	%	77.8	97.3%	87.5	109.4%			80.0

3 総合評価と評価の理由

総合 評価	A ①「立志の道事業」は、目標達成できている。今後、児童が参加しやすい日程や内容の検討を行い実施していく。 ②「山鹿・郷土かるた」は、学校だけでなく、文化団体や公民館の活動へ取り組みを広げていく。 ③満足度調査でも高い評価を受け、参加した生徒も地域の歴史や文化財などを知る機会となり、ふるさと山鹿を愛し誇りに思う人材育成につながっている。
----------	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施 策 名	Ⅱ－2 文化財の保存と活用		
施策の目的	八千代座（国指定重要文化財）を適切に保存管理し、併せて文化・観光振興に資する活用に向けて計画を作成し、必要な整備を実施する。また、本市に残された多くの貴重な文化財について、保存と活用を両立させることによって次の世代に確実に伝えていく。		

1 事業の取組状況

【事業名】文化財保存・活用事業

取組内容	①方保田東原遺跡（国指定史跡）を会場とした「ヒマワリ畑でクイズラリー」や「ランタンフェスティバル」を実施した。また、鞠智城国営公園設置促進期成会への補助等を通じて、文化財を活用した事業を展開した。方保田東原遺跡の公有地化を進めた。 ②埋蔵文化財包蔵地における工事等について、届出に基づき試掘・確認調査や工事立会を実施した。	成 果	①文化財を生かしたイベントは文化財関係団体等にも協力を呼びかけたことで、下記指標のように多くの市民の参加があった。また、報道等を通じてイベントの様子を発信することで、市内外から山鹿市の文化財に対する関心を高めることができた。 ②埋蔵文化財包蔵地における工事等については、事業者手続きの周知が進んだことで適切に対応することができた。
課題及び今後の展開	公有地化を進めている方保田東原遺跡については将来的な整備に向け、保存管理計画の見直し等の取り組みを進める必要がある。 また、タケ繫茂など日常管理に課題がある相良のアイラトビカズラ（国特別天然記念物）について、保存活用計画の策定と適切な管理が求められている。		

【事業名】八千代座保存活用整備事業

取組内容	文化庁や熊本県の指導のもと、令和4年度に策定した保存活用計画について、文化庁の認定を受けた。 また、老朽化と過去の台風被害により破損していた八千代座交流施設の塀の取替工事を実施した。	成 果	保存活用計画の認定により、計画期間中（10年間）の軽微な修理について文化庁修理届の提出義務が緩和されることとなった。 また、計画策定の過程で市、指定管理者、使用者間で八千代座の保存活用への共通認識を構築できた。同時に国庫補助を受けて維持補修を進めることが可能になった。
課題及び今後の展開	八千代座については、保存活用計画に基づき適切な維持補修を進めることが求められる。防火設備等の改修を進め、保存に万全を期すとともに、これまで以上に活用に関する取り組みを進めていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
1	指定文化財等の見学者(八千代座、チブサン古墳、康平寺、出土センター、清浦記念館)	人	32,770	56.0%	34,152	58.4%			58,500
2	文化財を活かしたイベント等の参加者	人	1,993	92.7%	2,544	118.3%			2,150
3	八千代座の施設利用者・見学者数	人	60,878	75.2%	55,075	68.0%			81,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 八千代座に関しては今後10年間の保存活用管理についての基本的な指針を定めることができ、今後の整備の方針がまとまった。 このほか、市内文化財については適切な保存に努めながら、その魅力や価値を発信するための行事やイベント等を開催した。 方保田東原遺跡や鞠智城での事業には県内外から多くの参加があり、開催を通じ文化財についての周知を図ることができた。
------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施 策 名	Ⅱ－3 博物館展示等の充実		
施策の目的	郷土の歴史資料等について調査・研究、保存・保管、展示することにより、市全域の歴史や文化、文化財等に接することを目的とする。このためテーマ別の展示活動や講座等を推進するなど、市民に親しまれ子どもたちが集う博物館を目指す。		

1 事業の取組状況

【事業名】博物館展示事業

取組 内 容	名称、期間	成 果	入館者・参加者数
	①夏季企画展「昭和レトロな暮らし探検」 R5.7.22～9.24		①898人
	②秋～冬季企画展 国無形文化財選択50周年「肥後琵琶 最後の琵琶法師山鹿良之(やましかよしゆき)の世界」 R5.10.22～R6.2.25 ・演奏会 R5.12.15 ・講演会 R6.1.21		②1,321人 ・演奏会 48人 ・講演会 24人
	③まちなか博物館「山鹿の石橋」展 R6.2.9～2.18（八千代座交流施設）		③814人
	④博物館ワークショップ（夏、冬、春） ・古代体験ひろば R5.7.30 ・竹細工教室 R5.8.12 ・星空観察会（夏）R5.8.26 ・勾玉づくり R6.2.3 ・星空観察会（春）R6.3.2		④ ・古代体験ひろば 23人 ・竹細工教室 30人 ・星空観察会（夏）33人 ・勾玉づくり 20人 ・星空観察会（春）14人
	⑤博物館研修講座 ・初心者陶芸教室		⑤ ・受講者8名
	⑥自主講座 ・竹細工自主講座 ・古文書自主講座 ・拓本自主講座		⑥ ・竹細工受講者 36人 ・古文書受講者 19人 ・拓本 受講者 13人
課題及び今後の展開		展示事業や関連講座、イベントについて内容の充実や展示方法等を工夫する。同時に「ふるさと山鹿の歴史探検バス」などで学校教育や生涯学習とも連携して事業の充実を図る。施設は昭和53年の開館から45年以上が経過しており、施設老朽化やバリアフリー対応、展示・収蔵スペース不足等、ハード面での課題があり、改修の検討を進める必要がある。改修については、広く市民や関係団体の意見を集約し、整備方針に関する庁内意見の取りまとめしていく。	

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果 指 標	指 標 名	単 位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
									目標値①
1	博物館入館者数	人	4,418	76.2%	4,271	73.6%			5,800

3 総合評価と評価の理由

総合 評 価	B	博物館及び八千代座交流施設などを会場にして、肥後琵琶や山鹿の石橋など本市の文化をテーマにした企画展や関連イベントを当初の予定どおり開催することができた。これにより、文化や歴史の価値について周知することができた。
--------------	---	---

施策評価調書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施策名	Ⅱ－４ 生涯学習の推進		
施策の目的	市民や地域のニーズを反映した各種講座を通して「生きがいづくり」や「地域づくり」につながる支援を行う。		

1 事業の取組状況

【事業名】生涯教育推進事業

取組内容	①生涯大学講座（市主催） 60歳以上の市民を対象にした生涯大学講座は、音楽や食生活による「健康」に関すること、防災や交通マナーなどの「安心安全な暮らし」に関すること、方保田東原遺跡や鞠智城などの「山鹿の歴史文化」に関することなどを、講演や現地研修を通して知識を高め、受講者同士の交流を深めることで、地域づくりにつなげることを目的に実施した。 ②生涯学習講座（各地区公民館主催） 生涯学習講座は、大学教授や地域で活躍している方などを講師に「聞いてとくする」「歴史探訪」「健康づくり」「園芸」「初心者向けスマートフォンの使い方」「わいわい国際コミュニケーション」の6コースを設けて、受講生が興味を持ち楽しく受講できるよう実施した。 ③自主講座 初心者向けの学習を基本とした自主講座は、「水墨画講座」「革工芸講座」「健康ヨガ講座」「俳句講座」など受講生自らが運営を行った。また、自主性と意欲を高めるために、講座の成果発表会の支援を行った。	成果	①生涯大学講座 人生100年時代を迎え、元気な高齢者の増加もあいまって、生涯学習の意欲も高まってきており、生涯大学講座には、受講生として341人の申し込みがあり、延べ2,479人が参加した。 ②生涯学習講座 生涯学習講座には、受講生として144人の申し込みがあり、延べ703人が参加した。受講生からは、防災や健康、歴史等様々な内容の講座を行い、「今後実践していきたい」「もっと学びたい」等の感想があった。 ③自主講座 自主講座には799人が参加し、「市民のつどい（ステージ部門）（展示部門）」を開催し、受講生が日頃の成果を楽しく生き生きと発表した。
	課題及び今後の展開		受講者数の減少、高齢化による会場までの交通手段の確保、受講生が楽しく興味を持てる講座メニューの選定などの課題がある。今後は多くの市民が幅広く学べるよう、受講者からのアンケートなどを通して魅力ある講座メニューの選定に努め、多様な分野の講座を提供するとともに、受講者同士のネットワークを強化し新規受講者の増加を目指していく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			目標値①		目標値①		目標値①		目標値①
1	各種講座受講生数	人	1,296	87.9%	1,284	87.1%			1,475

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、コロナ感染症対策を緩和しながら講座を開催した。受講者数はコロナの影響もあり、昨年度並みの受講数であった。また、受講生が楽しく生きがいを持ち受講することができた。
------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施 策 名	Ⅱ－5 文化団体の育成支援		
施策の目的	芸術文化には音楽や演劇、舞踏などの種類があり、そのいずれもが演ずる人や鑑賞する人々に感動や生きる喜びを与えて人生を豊かにするほか、地域社会全体の活性化にも大きく寄与する。このため文化団体間の連携・強化や、郷土芸能団体の活動支援を図ることにより、文化芸術活動の継続や民俗芸能の保存・継承を目指す。		

1 事業の取組状況

【事業名】文化団体育成支援事業

取組内容	①市内の神楽や雨乞い踊りをはじめとする民俗芸能団体に対して資金面から支援するため、補助金を交付した。このほか、令和6年2月に八千代座で民俗芸能発表会を開催した。 ②令和5年10月に第31回鹿北茶山唄全国大会を開催した。全国大会についても補助金を交付するほか、鹿北市民センターとともに運営の支援を行い、市全体の宝として周知および活動振興を図った。 ③市内の芸術文化団体に対して資金面から支援するため補助金を交付した。芸術文化祭における会場設営や撤去などのほか運営面においても開催の応援を行い、文化芸術活動の発展を図った。	成果	①民俗芸能団体への補助金については、市内9団体より申請があり、活動運営を資金面からサポートすることができた。 民俗芸能発表会は、参加団体が2団体となったが、100名を超える来場者があり、民俗芸能への周知や理解を促す機会となった。 ②市指定無形文化財である「鹿北茶山唄」を市内外に広くPRするとともに、鹿北茶業の振興に寄与した。特に、鹿北茶山唄全国大会については、県内外から138人の申し込みがあり、121人の出場があった。鹿北茶山唄の普及啓発のみならず、本市特産品「鹿北茶」のPRにもつながった。 ③文化協会の会員数は昨年度に比べて7名の微減となった。芸術文化祭については、ほぼコロナ禍前の規模で開催され、参加者は604名、入場者数は2,030名であった。
課題及び今後の展開	民俗芸能保存団体の存続が厳しい状況にある。コロナ禍の活動停止期間により、今年度においても活動が再開されていない団体が数団体見られる。保存継承活動を進めるため、引き続き活動費の支援を続けるとともに、団体の活動休止を想定して映像による記録保存も同時に進めていく。 文化協会会員の高齢化と会員減少傾向が進んでいることから、会員だけでなく様々な分野の意見も聞きながら計画的に協会の活性化と会員増加を図っていく必要がある。 また、文化協会の会員の活動を促進していくため引き続き資金面の支援をしていくほか、令和6年度に策定する文化芸術推進基本計画の中で文化協会活性化に向けた意見を様々な分野から聴取し、計画に反映させ事業を進めていく。 文化協会の組織の一本化や会員減少など解決できていない課題に対しては当協会と引き続き協議を続け、対応していく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
									目標値①
1	文化協会会員数	人	611	76.4%	604	75.5%			800
2	民俗芸能会員数	人	321	80.3%	311	77.8%			400

3 総合評価と評価の理由

総合評価	C	民俗芸能については団体の解散を検討しているものもあるため、早期に映像による記録を進める。一方で、後継者育成や民俗芸能団体の活動について広報を積極的に行う必要がある。 文化協会については会員の減少が続いており、対策が必要である。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
	みらい彩る		豊かなコミュニケーション能力の育成
施 策 名	Ⅱ－6 読書活動の推進		
施策の目的	乳幼児から高齢者まで全ての世代が読書に親しみ、感性を磨き、知識を高め、思考力やコミュニケーション力の向上につながる読書活動のための環境を整備する。 また、様々なニーズに対応できる図書の充実を図り、特徴ある図書館・図書室を整備する。		

1 事業の取組状況

【事業名】夢の「とびら」をひらく事業

取組内容	乳幼児から読書に親しむ環境をつくるため、3・4か月健診及び1歳6か月健診時に、絵本のプレゼントや読み聞かせを行うブックスタート事業（※1）及びブックスタート・プラス事業（※2）を行った。 移動図書館を運行し、保育施設、高齢者施設等での図書の貸し出しを行った。 （※1）ブックスタート事業・・・3～4か月検診の会場で2冊の絵本をプレゼント （※2）ブックスタート・プラス事業・・・1歳6か月検診の会場で3冊の絵本から1冊を選んでプレゼント	成 果	3・4か月健診（ブックスタート事業）には311冊、1歳6か月（ブックスタート・プラス事業）には295冊の絵本を配布した。また、読み聞かせを行い、親子で読書に親しむきっかけとなった。 移動図書館を保育園、幼稚園、小学校、郵便局等施設65か所で運行し、本に触れる機会を作った。
	課題及び今後の展開		利用者数が伸び悩むものの、コロナ禍で減少した乳幼児等の親子での来館が増えつつある。今後も図書館利用を促すイベントやお話会を実施し、情報発信を積極的に行い市民へ周知していく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
									目標値①
1	公立図書館・図書室利用者延べ人数	人	66,908	83.6%	66,933	83.7%			80,000
2	図書館・図書室個人貸出数	冊	262,019	81.9%	253,119	79.1%			320,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	夏休みや春・秋の読書週間期間中に、こども司書体験などの体験型イベントや夜のおはなし会を2回実施したことにより、来館者が戻りつつあるが、利用者延べ人数、貸出冊数とも、目標に達することができなかった。
------	---	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施 策 名	Ⅱ－7 公民館活動の推進		
施策の目的	公民館活動を通して地域の活性化を推進するための支援を行う。地区公民館の活動を支援し、地域コミュニティの維持・存続を図る。 また、自治公民館の改修補助、地区公民館の長寿命化事業による活動拠点の整備を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】地域学校協働活動事業

取組内容	1 2地区の公民館指導員が、市内小中学校と地域との橋渡し役として地域学校協働活動推進員を兼務し、地域住民と学校（小中学生）が相互に、学校行事、地域行事などの支援協力活動を行うことで、地域で子供の成長を支えるとともに、地域が活性化する活動を推進した。	成 果	地域住民やボランティアによる小中学校への協力として「登下校の見守り」「家庭科授業のサポート」「朝の読み聞かせ活動」「交通安全教室」「職業講話」などの活動があり、小中学生による地域への協力として「地域祭り」「農作業体験」「地域の伝統芸能」「花壇の整地・花植え」など協働活動として実施することで交流による地域と学校の活性化につながった。
課題及び今後の展開	令和4年度末に小学校が閉校した2地域（平小城、三岳）では、地域活動が無くなることを心配されたが、統合した山鹿小学校の協力と地域での新たに取り組んだ平小城フットパスやニュースポーツで、地域住民が交流し地域活動ができた。		

【事業名】地区公民館地域づくり講座事業

取組内容	1 2地区公民館が地域にあった講座を開催し、地域の自然や文化を再確認し、地域の特色を生かし地域づくり・人づくりを推進した。	成 果	7地区の公民館指導員がそれぞれの地域で中心となり「メタボ予防食作り」「星空観測会」「犬子ひょうたんづくり」「男性料理教室」「ノルディックウォーキング」など地域の特色を生かした1 2講座を開催し、延べ844人の参加があり、地域づくり・人づくりにつながった。
課題及び今後の展開	令和5年度は7地区の公民館で事業を実施したが、令和6年度は全1 2地区公民館が事業を開催するよう推進していく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
			80,218	124.8%	88,252	137.3%			目標値①
	地区公民館利用者数	人	80,218	124.8%	88,252	137.3%			64,300

3 総合評価と評価の理由

総合評価	A	地区公民館指導員に地域学校協働活動推進員を兼務し、これまでの公民館事業（地域づくり講座）と学校と地域が連携・協働して実施する地域学校協働活動を活発に行うようになったことで、利用者の増加につながった。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	みらい彩る	基本目標	社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成 SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成
施 策 名	III-1 山鹿創生塾		
施策の目的	これまでの長い歴史に培われた伝統や文化、市民の気質等を礎にして、活力あふれる“ふるさと山鹿”を築くとともに、市民の夢と希望を形にする「山鹿創生」を実現するため、山鹿を元気にし、将来の山鹿を担う人材の育成を目指す。		

1 事業の取組状況

【事業名】山鹿創生塾事業

取組内容	山鹿市内の中高生を対象に、自分のスマートフォンなどを使い、グループで「山鹿市のPR」という大枠の中で内容を決め、動画を制作（撮影、編集）する体験講座を開催した。 座学による講座を2回、撮影・編集1回、撮影会1回の合計4回の講座を開催し、その結果5本の動画が完成した。 講師はTikTok(ティックトック)やインスタグラムで多数のフォロワーを持つインフルエンサーとその所属事務所スタッフが担い、動画制作にあたっての着眼点や構成案作成方法のほか撮影・編集方法についての説明があった。 作成する動画の対象（店舗や観光スポットなど）については、撮影スケジュールの関係上、豊前街道周辺とした。 完成した動画は山鹿市のYouTubeチャンネルで公開し、山鹿創生塾の内容を山鹿市のホームページで公開した。	成果	参加者は山鹿市内在住、在学の中学2年生と高校1～2年生で合計19名が参加し、皆勤賞は7名であった。受講生の満足度は76.9%と目標値に近い数値を得た。 受講生からは「実際現地で撮影し、友達と協力しながら楽しく学べた」「とにかく山鹿の魅力に触れることができてよかった」「本物のインフルエンサーから直に動画づくりを教えてもらえてよい経験になった」などという感想があり、楽しく山鹿の魅力に触れ学べたことが窺えた。 動画制作の技術を得るとともに、自分が住んでいる山鹿市の良さを見つめなおし、郷土愛を養う機会となった。
課題及び今後の展開	前回までの座学形式から体験型に内容を変更した。受講者からの要望点として「動画編集や動画撮影のポイントをもっと知りたかった」という意見を参考に、内容を改善し、次年度も体験型の講座を開催していきたい。 なお、受講者募集に苦慮したため、募集時期や募集方法について受講者や学校の先生から聴取した意見をもとに改善を図っていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度)
			実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	目標値①
1	山鹿創生塾参加者の満足度	%	98.8%	123.5%	76.9%	96.1%			80.0%

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 前年度に比べ実績値は下がったものの、ほぼ目標値の数字を得た。受講生の感想からは上記成果で紹介しているとおり山鹿の魅力に触れたなどの感想が得られるなど肯定的な内容が多かった。 これらは、事業内容の一部変更（座学から映像制作体験へ）したことが奏功したものと考えられる。
------	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
		学校教育課

基本方針	みらい彩る	基本目標	豊かなコミュニケーション能力の育成
施 策 名	III-2 国際理解教育の充実		
施策の目的	○グローバル化に対応する人材育成のため、青少年等に国際交流の機会を提供する。 ○高齢者が英会話を学ぶことで「生きがいづくり」や「地域づくり」につながる国際交流を目指す。 ○令和2年度から小学校5・6年生で外国語が正式に教科となり、小学校3・4年生では外国語活動が導入されたことを踏まえ、学習環境を整備し、小中学校における外国語教育の充実を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】国際交流事業

取組内容	姉妹都市であるオーストラリアのクーマとの派遣団交流は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止が続いており、令和5年度もモノロ高校生とのオンライン交流事業とALT作成によるプログラムを実施した。市内小学5年生～中学生を対象に募集を行い、8月に18名が参加した。	成 果	オンラインによる交流では、海外の同年代の学生と英語で会話をする貴重な経験となった。また、ALTが作成したプログラムを通じて、より楽しく英語に触れることができた。
課題及び今後の展開	オンライン交流事業を継続するとともに、派遣交流事業については民間主導等その手法、在り方について検討していく。		

【事業名】生涯教育推進事業

取組内容	生涯学習講座の1コースとして、ALTによる英会話講座を行い、小学生から80代までの受講生12名が参加した。	成 果	受講生同士が英語を教えあいながら、クイズ等取り入れることで楽しく受講し、外国に興味を持つ機会となった。また異年齢間での英語交流を行うことができた。
課題及び今後の展開	講座を引き続き行い、子どもが参加しやすい手法を検討していく。		

【事業名】外国語指導事業

取組内容	①ALT10名を小中学校へ配置し、外国人講師が児童生徒と直接関わることにより、異文化理解や外国語に対する興味・関心を高め、実践的な言語活動を通して英語力向上に努めた。 ②英語担当教職員の指導力の向上を図るため、実践交流会を開催した。 ③希望受験であった英語検定試験から、スコア型の外部英語能力テストをGTEC(※1)に変え、中学3年生全員が授業中に受験することで、より客観的で正確な評価を出せるようにした。また、受験者の受験費を全額補助した。 GTEC(※1)・・・ジーテック。小学生から社会人までの方が英語力を測定できるスコア型英語4技能検定	成 果	①諸調査において、小・中学校の児童生徒の「英語が好きである」と肯定的に答えている割合が県平均よりも高かった。 ②英語専科の職員を中心に、小学校での英語の授業研究・実践が活性化しており、児童の話す力・聞く力の向上につながっている。 ③中学校では、県学力調査の結果が全ての領域の県平均と等しいか上回ったが、目標値に届かなかった。また、英語検定試験から、外部英語能力テストGTECに変更したことでCEFR(※2)のA1レベルの中学3年生が大幅に増加した。 CEFR(※2)・・・セファール。外国語の習熟度や運用能力を測る国際的指標。外国語の4技能(読む、聞く、書く、話す)の習熟度および運用能力を「A1」「A2」「B1」「B2」「C1」「C2」の6段階で評価。
課題及び今後の展開	小学校と中学校の接続の部分に課題があり、「読む」「書く」活動が増える中学1年生への指導方法の研究と英語嫌いを増やさないための指導方法の研究を進めていく。英語「話すこと」のテストに対応できることも含め、英語力の向上を目指し、タブレットの活用を図っていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果 指標	指 標 名		単位	R 4		R 5		R 6		R 6 (計画最終年度) 目標値①
				実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	実績値②	達成率②/①	
	1	熊本県学力学習状況調査平均正解率を上回る学校の割合(英語)	%	80.0	87.0%	70.0	76.1%			92.0
	2	CEFR A1レベル(英検3級相当)の中学校3年生取得率	英語検定 GTEC %	29.9	85.4%					35.0
						81.1	101.4%			80.0

※令和5年度から3年生全員が受験、4技能の習熟度が分かる検定方法(GTEC)に変更したため、目標値を新たに設定。

3 総合評価と評価の理由

総合 評価	B	オンライン交流や、生涯学習講座を実施することにより、児童から高齢者までの幅広い年齢層を対象に、国際交流の機会を提供することができた。 熊本県学力学習状況調査で平均正解率を上回る学校の割合は10%下がったが、令和5年度から導入したGTECでは、80%を超える結果を残している。今後も4領域(読むこと、書くこと、話すこと、聞くこと)のバランスのとれた力をつけるために、英語への関心意欲を高め、英語に慣れ、親しみ活用できる児童生徒の育成を目指したい。
----------	----------	--

4 教育委員会の主な活動状況

(1) 教育委員会会議

教育委員会会議には原則として毎月開催される「定例会」と、必要に応じて開催される「臨時会」があり、令和5年度は定例会11回、臨時会1回を開催し、教育行政の基本方針・施策等について協議・議決を行いました。

種別	開催日	主な議案等
定例会	令和 5 年 4 月 2 0 日	教育長職務代理者の選任／教育委員会が委嘱する委員等
定例会	令和 5 年 5 月 2 2 日	例規等の改正等／教育委員会が委嘱する委員等／教育委員会の事務に関する点検評価報告
定例会	令和 5 年 6 月 2 6 日	6月定例会／教育委員会が委嘱する委員等／教育委員会の事務に関する点検評価報告
定例会	令和 5 年 8 月 2 2 日	9月補正予算／教育委員会が委嘱する委員等／教育委員会の事務に関する点検評価報告
定例会	令和 5 年 9 月 2 8 日	9月定例会／立志の道事業
定例会	令和 5 年 1 0 月 2 3 日	教育委員会が委嘱する委員等
定例会	令和 5 年 1 1 月 2 2 日	1 2 月補正予算／財産の譲渡／学校規模適正化等協議会
定例会	令和 5 年 1 2 月 2 5 日	1 2 月定例会／学校規模適正化等協議会／夢プロジェクト／二十歳のつどい
定例会	令和 6 年 1 月 2 3 日	青少年健全育成大会／民俗芸能発表会／山鹿の石橋展
定例会	令和 6 年 2 月 2 1 日	3月補正予算／当初予算重点事業／例規等の改正等／学校給食施設再編整備
臨時会	令和 6 年 2 月 2 4 日	教職員人事
定例会	令和 6 年 3 月 2 5 日	3月定例会／例規等の改正／学校給食施設再編整備

(2) 総合教育会議

総合教育会議は、市長と教育委員会が教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置などについて協議・調整を行う場で、令和5年度は2回開催しました。

	開催日	協議事項等
第1回	令和5年10月23日	「スポーツを通じた市民の健康づくり」について
第2回	令和6年 2月21日	「子どもの体力向上」について

(3) 学校訪問の実施状況

山鹿市教育委員会学校教育指導の重点を踏まえた学校教育目標・努力点の具体的な実践状況を把握し、その推進を図るとともに、各学校の学校経営や教育指導の支援に資するため、教育委員、事務局職員及び教科研究員等で学校を訪問しています。

令和5年度は、13校全ての学校への訪問を実施し、指導・助言を行っています。

(4) 宮古島市との友好都市締結式

令和5年7月20日、宮古島市役所 両市の市長、議長、教育長、交流推進協議会他関係者出席

(5) その他の活動状況

(学校関係)

- ・山鹿市立小中学校の入学式、卒業式、運動会、体育大会等
- ・小中学校あいさつ運動（毎月2回）
- ・園長・校長会議
- ・教科用図書選定調査委員会

(他教育機関の視察・研修等)

- ・熊本県都市教育長協議会
- ・熊本県市町村教育委員会連絡協議会定例会
- ・熊本県市町村教育委員会連絡協議会教育長部会
- ・熊本県市町村教育長会議
- ・熊本県市町村教育長研修大会
- ・熊本県市町村教育委員大会

5 教育委員会事務局の組織及び事務分掌

(1) 組織図（令和6年4月1日現在）

教育委員会	教育部	教育総務課	総務企画係
			施設管理係
		学校教育課	学務係
			教育支援係
			幼稚園（山鹿）
			小学校（山鹿、八幡、三玉、大道、鹿北、菊鹿、鹿本、めのだけ）
			中学校（山鹿、鹿北、菊鹿、鹿本、米野岳）
			給食センター（菊鹿、鹿本）
		学校教育指導室	
		生涯学習・スポーツ課	生涯学習係
			スポーツ振興係
		文化課	文化企画係
			文化財係
		博物館	

(2) 事務分掌

課	係	事務分掌
教育総務課	総務企画係	(1)教育に関する総合的な政策の企画調整及び広報に関すること (2)教育委員会の会議に関すること。 (3)例規に関すること。 (4)教育行政に係る相談に関すること。 (5)栄典及び表彰に関すること。 (6)学生及び生徒の奨学に関すること。 (7)事務局の庶務に関すること。
	施設管理係	(1)市立学校、幼稚園及び給食センターの施設の整備及び補修に関すること。 (2)学校用地の取得に関すること。 (3)前2号に掲げるもののほか、学校施設に関すること。
学校教育課	学務係	(1)学校給食に関すること。 (2)学校の予算に関すること。

		(3)学校保健に関すること。 (4)学校教育用品に関すること。 (5)幼稚園の管理及び運営に関すること。
	教育支援係	(1)通学区域に関すること。 (2)遠距離通学の対策に関すること。 (3)学校安全に関すること。 (4)学校教育における情報通信技術の活用に関すること。
学校教育指導室		(1)教科用図書の採択に関すること。 (2)教育課程の編成に関すること。 (3)教職員の人事、服務及び給与に関すること。 (4)教職員の資質の保持及び向上に関すること。 (5)就学に関し必要な指導及び助言に関すること。 (6)児童及び生徒の就学に関すること。 (7)学級編制に関すること。 (8)市立学校との連絡調整に関すること。
生涯学習 ・スポーツ 課	生涯学習係	(1)市立社会教育施設に関すること。 (2)青少年の健全な育成に関すること。 (3)家庭教育の支援に関すること。 (4)国際姉妹都市交流事業に関すること。 (5)生涯学習の推進に関すること。 (6)社会教育委員に関すること。 (7)社会教育に関する活動を行う者に対する指導及び助言に関すること。 (8)学校教育と社会教育の連携に関すること。 (9)その他社会教育の振興に関すること。
	スポーツ振興係	(1)市立社会体育施設に関すること。 (2)社会体育の振興のための学校施設の開放に関すること。 (3)スポーツの振興に関すること。 (4)スポーツ大会の誘致に関すること。 (5)スポーツ推進委員に関すること。 (6)社会体育に関する活動を行う者に対する指導及び助言に関すること。 (7)体力の保持及び増進に関すること。
文化課	文化企画係	(1)文化及び芸術の振興に関すること。 (2)八千代座その他の市立文化施設に関すること。 (3)文化に関する展示会その他の催しに関すること。 (4)鞠智城の国営公園化の推進に関すること。
	文化財係	(1)文化財の保存及び活用に関すること。 (2)文化財の調査に関すること。

		(3)市立博物館に關すること。
--	--	-----------------